

専門・総合性の

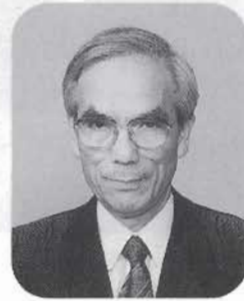
深化をめざして

生物生産学部長 畑 中 千 歳

この度、生物生産学部長に選任され、その責務の重さを痛感している。力量・経験ともに不足の身ではあるが、関係各位のご協力とご指導を仰ぎながら、直面する諸種の課題に適切に対応すべく努力したいと考えている。

生物生産学部長は、今、学部を改組して十五年目、西条キャンパスに移転して六年目の春を迎えている。現在、学部の教育組織を三コースから六コースに再編成するために、平成六年度スタートに向けて構成員全員が鋭意作業を進めているところである。幸い念願がかない、総合科学部を西条キャンパスに迎えることができた。生物圏科学研究科の平成六年度概算要求も含めて、学部と大学院における教育・研究に、より緊密な協力体制が生まれることを期待している。

生物生産学は、言うまでもなく応用生物科学であり、総合性の強い学問領域である。専門性の深化と総合性を深めることは一見矛盾するように思われるが、学際・広領域における教育・研究は、専門の深化があつてはじめて可能であると考ええる。ただし、学生の多様なニーズには、研究組織そのものの多様化ではなく、教育コースの多様化で対応するのが妥当であると考えている。西洋のことわざにもあるように、木を見ては森を見ることができないであろう。専門の深化にとらわれすぎて全体像を見失わないように心がけたいと思つている。学部構成員並びに関係各位の一層のご支援を心よりお願い申し上げます。



新時代の図書館を

めざしての船出

附属図書館長 藤 本 黎 時

図書館はその名称が示すように、本来図書を取納して閲覧に供する建物であり、図書によって学術情報の提供・伝達を行う施設である。しかし、今や、電子メディアの発達によって、このような図書館本来の性格が大きく変わろうとしている。伝統的な意味での図書館の理念が問い直されねばならない時代となった。

また、広島大学は統合移転にあわせて中央図書館と西図書館の建築がすすみ、施設の刷新・拡充と学術情報提供システムの整備の過程にある。

以上のような観点から、附属図書館は新時代への過渡期にあり、解決してゆかねばならない幾多の課題を背負わされている。このような時期に、附属図書館長の重責を担うことになり、不完全な海図を頼りに新大陸をめざして船出ししなければならぬパイロットの心境である。しかし、ともかくも船出した以上は、全学の図書館運営委員の先生方の英知をお借りし、有能な事務官の協力を仰いで、新航路を切り開いていかねばならない。

附属図書館が、建物の新築・増築にあわせて、中央館・本館と各分館との間に機能の分担面等で有機的な連携をもち、全学の学術情報供給施設としての中枢的存在となるよう、一元化への検討が始められた。これは、電子メディアの発達が学内外の図書館間の相互協力・相互利用を促す方向でもある。

また、これまで各局部からの負担金に依存するところが大きかった図書館経費についても、中央館で一括確保して各館に分配するという一元化方式への基本的合意が得られた。

以上のような新路線は津留宏道前館長のご努力の賜物であり、これを引き継いでゆくのが私の責務と考えている。

